

韓国ドラマヲノススメ

第四回 戦争映画

うさお &
Cacco

南北分断という歴史を持つ朝鮮半島は、それを題材にしたいくつかの名作韓国映画を生み出した。日本ではあまり作られない戦争映画も徴兵制のある韓国ではもう少し身近な感覚で捉えられ、観客を呼ぶのかもしれない。ソン・スンホンの入隊、ウォン・ビンの除隊などは日本でもニュースとして放送され、おばさまたちが見送りや出迎えに大挙して押し寄せていました。WBCで好成績を残せば兵役免除になることが話題になり、俳優さんにとってもスポーツ選手にとっても入隊による二年のブランクは大きなマイナスであることがわかります。そんなことならいっそ兵役なんてなくしちゃえばいいのに。簡単にはいきません。

【シュリ】

1998年9月ソウル。2002年のワールドカップのため南北朝鮮統一チームが結成され、南北交流試合開催のニュースに国内は沸いていた。韓国の情報部員ユ・ジョンウォン(ハン・ソッキュ)はアクアショップを経営する恋人イ・ミョンヒョン(キム・ユンジン)との結婚を1カ月後に控えながら、北朝鮮の女工員イ・バンヒを追っていた。1999年公開。



Cacco

日本でも話題になって一気に韓国映画が日本で認知されたという記念碑的作品。この後に「冬ソナ」ブームなんかやってきます。アクションと恋愛の二本立てのようにお話が進んでいき、ロードショーで観たグリコちゃんは「アクションシーンは迫力があって見応えがあるけど、恋愛劇のほうはもろメロドラマ…」って批評を当時のDOKU-GAKUに寄せてくれています。わたしとしてはこのメロドラマ部分がお気に入り。アクションだけならやっぱりハリウッドにはかなわない。でもそこからませる超メロドラマがなんとっていいのです！主演のハン・ソッキュは「八月のクリスマス」の写真館の主人。全く違うタイプの役を見事にこなし、彼を見ていると、男性っていうのはあんまりハンサムじゃないほうがいいんだなあと思ったりします(˘_˘)

うさお

韓国映画がハリウッドになったと宣伝に書かれていた初めの映画だと思う。確かに兵役の無い日本ではストーリーも成立しない映画だったかも。ただ、ミッション・インポッシブルなどと同じ位に出来の良かった映画かと言うと、そうは感じなかった。キム・ヒョンヒの大韓航空機爆破事件があった後で、

インパクトはあったね。でも確かに、韓国映画が今までの流れからはっきり変わった作品でしょう。この後、映画のタブーもどんどん外れて女優さんの裸も出てくるようになったしね。何しろ、儒教の国だったから。

【JSA】

韓国、北朝鮮を分断している38度線。共同警備区域（JSA）で北朝鮮の兵士が韓国の兵士に射殺される事件が起きた。現場にいた韓国兵長と北朝鮮士官の二人（ソン・ガンホ、イ・ビョンホン）は互いに全く異なる陳述を繰り返した。両国間の問題を穏便に解決するため、両国同意のもと中立国監督委員会が責任捜査官として韓国系イス人である、女性将校ソフィー（イ・ヨンエ）を派遣した。彼女は生き残った南北の兵士たちと面会を重ね、徐々に事件の真相に迫っていく。そこには全く予想外の「真実」が隠されていた……。2001年公開。



Cacco

複雑なストーリーの面白さ。「藪の中」です。女性将校はチャングムのイ・ヨンエ、韓国兵をブレイク前のイ・ビョンホンが演じていて、今となっちやお馴染みのふたりです。ラストはなんたって重いのですが、そこに至るまでの扉を一枚ずつ開けていくような展開にはどきどきします。二回観ましたが二度目のほうが面白かった。ちょっと複雑だとすぐストーリーについていけなくなるのです。でも一本の映画で二回三回楽しめるのはお得かもしれないなあ。

うさお

これは北と南の確執の話ではなく、根底は「あなたの真実は！」って、謎解きにある。これが面白い。政治的な要素がもっと入っている映画かと思いき、見る前から苦手だなんて思っていたら、そんなこんなで面白かった。「シュリ」より物語に深みを感じられたよ。

強いて言うなら、主役はイ・ビョンホンではなく、ハン・ソッキュのほうが面白かったかも。イ・ビョンホンのほうがちよいと強そうなイメージがありすぎ……。

【二重スパイ】

1980年代、冷戦下。脱北者を装い韓国に潜入した北朝鮮スパイ、イム・ビョンホ（ハン・ソッキュ）は、偽装亡命の疑惑を晴らし次第に韓国側の信頼を得ていく。そして3年目、ついに最初の指令が与え



られる一「DJに接触せよ」。ビョンホは暗号を解読し、ラジオDJのユン・スミ（コ・ソヨン）と接触すること

になるが、彼女もまた、生まれながらの北のスリーパー・スパイ(韓国国内に潜伏して活動するスパイ)であった。圧倒的な孤独と絶え間ない緊張のなか、協力して任務を完璧に遂行した2人のスパイは、次第に心惹かれるが、「国が死ねと言えれば死ぬだけだ」と信じた男と「北でも南でもない場所で愛に生きたい」と願った女の激しい葛藤は、北の罨を見落とし、南に正体を知られるという絶体絶命の状況を生んでしまう。そして北からも南からも追われることになった2人は、ある決断を迫られる……。

Cacco

これもハン・ソッキュ主演のスパイ&恋愛もの。前に観たのをすっかり忘れうさおとふたりで二回も観ちゃいました。ラストがせつないんですねー。ハン・ソッキュは無骨だけど誠実な役どころがよく合います。

うさお

前に観てないって言っちゃいましたが、観てました。イム・ビョンホがハン・ソッキュって処が、ちょいと笑えちゃいました。「JSA」の成功の後の映画ですからね。何か対抗意識があったかの、それともお洒落なウィットだったかも。もう一辺、観れるかも。(^^)

【シルミド】



北朝鮮特殊部隊によるソウル大統領府襲撃事件をきっかけに極秘の特殊部隊がシルミドと言う無人島で結成された。彼らの任務はただひとつ、北朝鮮の最高指導者キム・イルソン暗殺。厳しい3年間の訓練を経て、殺人兵器となった彼らが北朝鮮への潜入目指して出発した直後、南北の対立が緩和。作戦が中止されるばかりか、一転、機密を知る彼らは抹殺の対象になった。

Cacco

男臭〜い映画。女の人出てきたっけ？実録もの。かれらのあまりの報われなさになんとか嫌な気持ちになる。悲しすぎるんじゃないかな。

うさお

意外とドラマが前面に出て、戦闘シーンは思ったより地味だった。それにしても南北の統合が図れないうちは、このような事件は次々と出てくるかも。テーマは、専横ぶりは北朝鮮の専売特許用に使っているが、南のほうだって国家と言うものは非情だよって言いたったたののかも知れない。

この人間ドラマが嘘くさいので、割と感情移入がしづらい映画です。もっと、淡々と割り切って画面づくりをしたほうが面白かったのでは。確かに性格俳優さんを集め、重みは出ていましたが逆に重すぎるんじゃない？ 渡哲也見たいのばかりじゃあ、変じゃない？

【ブラザーフッド】

主演;チャン・ドンゴン、ウォンビン。1950年の韓国ソウル。兄ジンテは一家の家計を支え、恋人ヨンシンとの結婚と、弟の大学進学のためにと苦しいながらも充実した日々を送っていた。一方甘えん坊の弟ジンソクも頼もしく優しい兄に守られて、何不自由ない生活を送っていた。しかし6月25日、事態は一変する。朝鮮戦争が勃発したのだ。混乱の中、ジンソクが軍人に強制的に徴兵されてしまったことから、ジンテも慌てて後を追う。ろくに訓練も受けないまま戦場へと送り込まれた兄弟。ジンテは、自らが身代わりとなって危険な任務につくことで、弟を戦地から遠ざけようとするのだが…。



Cacco

チャン・ドンゴン、ウォン・ビンのイケメンふたり(わたしはハン・ソッキュのが好き)が兄弟を演じ、自殺して話題になったイ・ウンジュがチャン・ドンゴンの妻を演じてます。彼女は松たか子に似てますよ。話題になったわりにはぼちぼちってところでしょうか。でも韓国の若手俳優たちは顔ぶつかが取り沙汰されますが演技力もあるんじゃないでしょうか。だってウォン・ビンなんてちょっとテレビドラマとは別人でしたもん。みんなけっこう映画だと重めの役を好むみたいですね。

うさお

興味は松たか子でした。いや本当に似ているなあ。でもイ・ウンジュのほうがやや線が細いかな。映画は「シュリ」で感じた地味なものを感じました。もちろん戦闘シーンは通常の爆破シーンのほかに、迫力を出すために、最近良く使われている散らばる土くれ、埃などのCGがふんだんに使われていました。逆に興味半減でした。そういったものを使わない、体当たりの映画づくりも欲しいなあ。

まあ、いつまでもジャッキー・チェンでも困るけど。これってどうやって撮影したんだろうって言う、そんなものも観客は期待しているよね。

こういうアクションシーン満載映画だと**うさお**さんもけっこう熱心に観るのです。わたしは映画の中で韓国語が話されれば案外それで満足なのです。いつも喧嘩しているように聞こえるという方もおりますが、なぜかわたしには心地よく響きます。そのうえ面白かったらもう何も言う事はないのです(^_^;)

チョンジエン ヨンファ ヌン ノム スルボヨ
クロナ ハングエ ヨクサエ コンブガ テヨ
戦争映画はとっても悲しいです。でも韓国の歴史の勉強になります
と言ってるよん” ^_^”